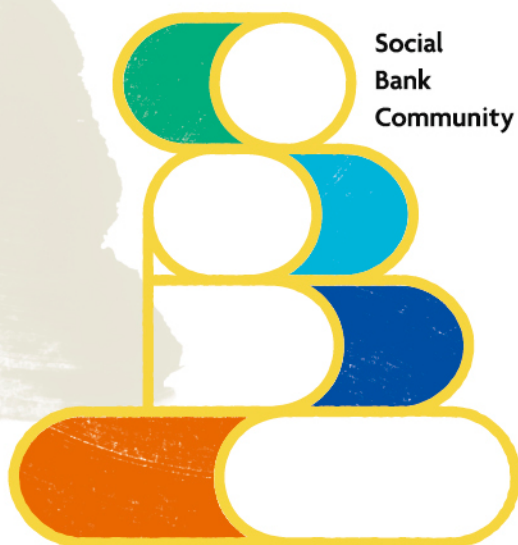




Social
Bank
Community

Annual Report

ソーシャルバンク・コミュニティ
2025年度 年次報告書



ソーシャルバンカーを
勇気づける。

2025-2026

ごあいさつ

地域金融機関における「組織的」「継続的」ソーシャルビジネス支援の定着に向けて、何ができるのか——そんな問いから始まったソーシャルバンク・コミュニティ（SBC）は、2024年9月の発足から2年目を迎えました。

昨年度は、47都道府県338名の発起人のみなさまのご支援を受けて発足し、発足記念イベントの開催やホームページの開設、分科会の実施など、「ともに考え、ともに進む」仲間との対話を重ねた1年でした。

2年目となる今年度は、SBC初のスクールを開催しました。コミュニティ・バンク京信を共催者に迎え、3つの信用金庫から19名のソーシャルバンカーが集い、『社会のこと』を『自分のこと』にする』をテーマに計4日間をともに過ごしました。参加者の満足度は8.5点（10点満点）。「自分は何も考えられていなかったことを気づかされた」「答えのない問いをひたすら考え話し合った3日間で、何かしないといけないという危機感を感じています」——そんな言葉が、この場で何かが動き始めたことを物語っています。

また、JPBVソーシャルビジネス支援プログラム「WILL」の共催に加わり、ソーシャルバンカーを育て、支援し続ける組織をつくる取り組みも一歩前進しました。

「ソーシャルビジネスに、もっと地域金融の力を」。その思いを胸に、SBCはこれからも歩み続けます。本報告書が、新たな仲間との出会いや対話のきっかけになれば幸いです。

2026年7月吉日

ソーシャルバンク・コミュニティ



私たちにについて

ソーシャルバンク・コミュニティ（SBC）は、SBC憲章を遵守してソーシャルビジネス支援に挑む金融機関の役職員（ソーシャルバンカー）を勇気づける機会を提供することで、地域金融機関における「組織的（本部・営業店の役職員一人ひとり）」「継続的（異動や世代交代があっても実践し続ける）」ソーシャルビジネス支援を日本各地に定着させることを目的に、2024年9月に発足しました。

SBC 憲章

SBC 会員である金融機関の役職員が行動する指針となる「SBC 憲章」は、以下の7つで構成されています。

1 金融包摂

社会課題の解決は認知度が低いところから始まることを認識し、ソーシャルビジネス事業者の挑戦に感謝し、決して排除しない

2 関係構築

社会課題の解決は時間がかかることを認識し、ソーシャルビジネス事業者との対話を重ね、長期的な関係を構築する

3 借物協創

社会課題の解決はソーシャルビジネス事業者だけで実現できないことを認識し、地域内外の人や組織を巻き込み、事業者に足りない資金や資源をつなぐ

4 人材育成

「組織的」「継続的」ソーシャルビジネス支援の定着に向けて役職員を育成し、交流する

5 情報発信

ソーシャルビジネス支援に関する情報を定期的に発信し、地域金融機関は事業者の相談相手であることを伝える

6 相互扶助

各会員のソーシャルビジネス支援の発展に協力し合う

7 決意実践

上記の実践計画を自ら立て、責任を持って取り組む

Highlight
2025－2026

2025年度ハイライト

2025年7月

初の『年次報告書』発行

SBC 初となる『年次報告書』を発行しました。ソーシャルバンカーたちの「ともに考え、ともに進む」リアルな姿を記録しています。

2025年11月

初のスクール＆ラボの開催

コミュニティ・バンク京信と共催で計4日間のスクールを初開催。ソーシャルビジネスの現場訪問や、内省と対話を繰り返すワークショップ等を通して、「社会のこと」を「自分のこと」として語り合い、ソーシャルバンカーとしてのあり方を問い直す場をつくりました。

2026年1月

WILL から WILL 2nd へ

JPBVソーシャルビジネス支援プログラム「WILL」2025@オンラインを共催しました。2026年度からはSBCが主催する「WILL 2nd」として、新たなステージへと踏み出します。

WILL 2nd レポート



Contents

目次

1
ごあいさつ
SBC憲章2
2025年度ハイライト
目次3
特集
—— SBCスクール2025
@コミュニティ・バンク京信
「社会のこと」と「自分のこと」を
つなぐ4日間8
2025年度活動報告9
2025年度
SBCパートナー会員による
ソーシャルビジネス
支援事例
コミュニティ・バンク京信
/ 西武信用金庫 / 玉島信用金庫11
数字で見るSBC12
2025年度決算報告
SBC事務局コラム13
2026年度活動計画14
SBCにかかわるには

『社会のこと』と 『自分のこと』をつなぐ4日間

—— SBCスクール2025 @コミュニティ・バンク京信

schedule

DAY 1

2025.7.29 tue

開講、講義：ソーシャルバンクとソーシャルバンカー、システム思考ワーク、U理論等の紹介



DAY 2

2025.7.30 wed

京信・榊田理事長講話、哲学対話、SOUNDメソッド、認定NPO法人CLACK現場訪問



DAY 3

2025.7.31 thu

ソーシャルビジネス支援ケーススタディ、2035年シナリオプランニング、OST、コミットメント



DAY 4

2025.10.22 wed

コミットメント振り返り、組織課題の対話（2on2）、今後に向けて



DAY 1

7月29日(火)

当レポート



緊張した面持ちで集まった19名。まず「システム思考」のワークを通じて、自分の何気ない行動が意図しない誰かに影響を与えていることを体感しました。その後、U理論をもとに「自分の思い込みとは何か」という問いに向き合い、「ありのままの自分を受け容れ、手放します」という言葉で1日目を終えました。

DAY 2

7月30日(水)

当レポート



京信の榊田理事長の講話には、西武・玉島の両理事長も駆けつけました。「おせっかいバンカーとしてとことん寄り添う」という言葉が場に響く中、午後は大阪・淀川の認定NPO法人CLACKへ現場訪問。困難を抱える高校生を支える現場を肌で感じた参加者たちは、「社会課題」を頭の中の概念から、目の前のリアルへと引き寄せました。

DAY 3

7月31日(木)

当レポート



2泊3日の最終日、参加者の表情は初日とは別人のように朗らかでした。2035年のシナリオプランニングで10年後の未来を想像し、OST*では「今ここにいる仲間とともに成し遂げたいこと」を語り合いました。締めくくりにコミットメントでは、一人ひとりが職場に持ち帰る「自分の言葉」を宣言。「答えのない問いを考え続けた3日間が、頭の中でまだぐるぐるしている」という声、その深さを物語っていました。
※OST(オープン・スペース・テクノロジー)：参加者自身がテーマを提案し、話したい人が自然と集まる形で進める対話手法。

DAY 4

10月22日(水)

当レポート



フォローアップセッション約3か月ぶりに再会したスクールメンバー。チェックインで「今の気分に近い曲を歌う」というお題に緊張しながらも笑い合う場面に、3日間で育まれた信頼関係が表れていました。組織課題を「妖怪」に見立てて可視化する対話を経て、最後は自分が困っていることを「助けて」と呼びかけるワーク。一人ひとりのビジョンに「一緒にやるよ」と仲間の声が重なり、4日間の学びが次の行動へとつながっていきました。

参加者の声

京都信金の歴史や社会課題に向き合う実践者のお話に触れ、自分の言葉や行動が多くの人に影響を与え、また与えられていることを実感する貴重な機会となりました。答えのない問いについて、多様な価値観を持つ参加者とともに考え、自分なりの答えを模索した経験も大きな学びです。当金庫の若手職員にもぜひ参加してほしいです。

安原 隼人さん
玉島信用金庫
経営企画部 課長代理



SBCスクールで大切にしてきたこと、それはバンカーとしての姿勢に踏み入る時の、葛藤や矛盾と向き合うことでした。

- ・短期視点か、長期視点か
- ・社会課題の解決か、利益の確保か
- ・理想を追求するのか、現実と向き合うのか
- ・そして、自分ごとなのか、他人ごとなのか

そんな答えのない問いに向き合うことにこそ、このプログラムの醍醐味があるのだと思います。

江上 広行さん
株式会社URUU 代表取締役

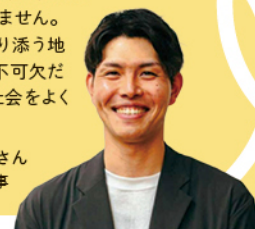


ファシリテーターの声

訪問先の声

私たちが向き合う高校生の多くは、明日を生きることで精一杯で、未来を描く余白を持っていません。その支援は成果が見えるまで時間がかかり、短期の評価軸では捉えきれません。だからこそ、財務だけでなく事業や暮らしに寄り添う地域金融機関のみなさんとの連携や協働が必要不可欠だと感じました。単なる目先の採算だけでなく、社会をよくする投資に大きな可能性を感じています。

井上 泰孝さん
認定NPO法人CLACK 代表理事



社会課題の解決に挑む人たちは、社会への違和感や願いを「自分ごと」として行動に移しています。その思いや原動力を理解し、共感するためには、自分自身の中にある違和感や願いにも目を向けることが大切ではないでしょうか。日々の業務から少し離れ、自分の中の問いと向き合う場として、このスクールを企画しました。

木村 真樹
SBC事務局/合同会社めぐる



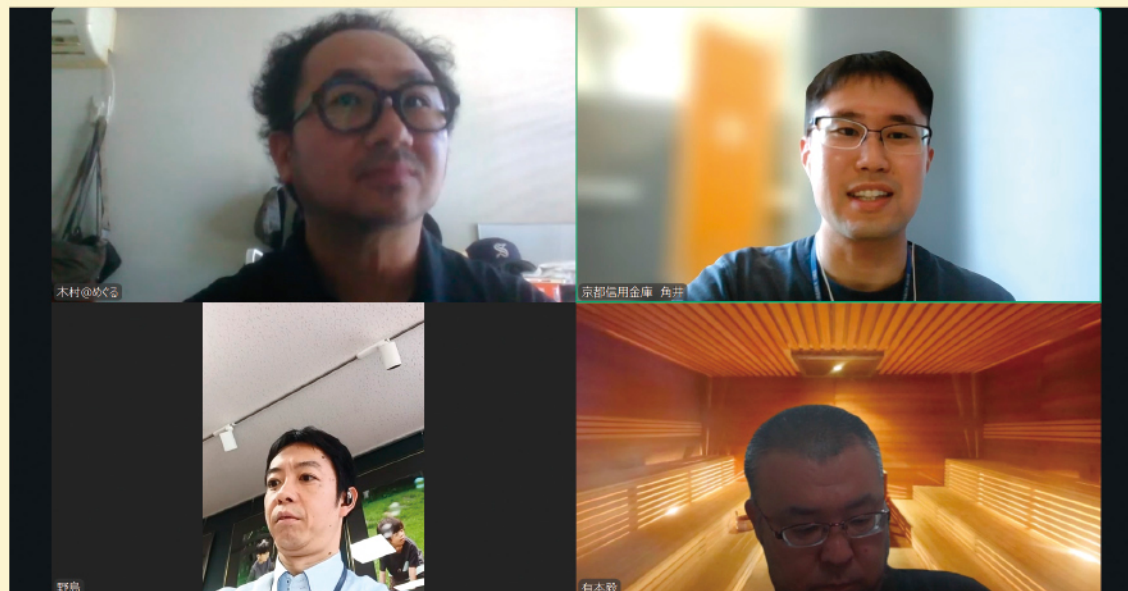
事務局の声

座談会

金融機関の“壁”を 越えた先に見えたもの ―― 参加者3人が語る学びと変化

2025年10月のSBCスクール・フォローアップから半年が経った2026年5月、SBCスクール2025に参加した3名のメンバーによるオンライン座談会を開催しました。コミュニティ・バンク京信の角井さん、西武信用金庫の野島さん、大分県玖珠町地域おこし協力隊の有本さんに、参加動機からスクール後の変化、そしてスクールの価値について語り合っていました。

聴き手：SBC事務局・木村（合同会社めぐる）



角井 慎哉さん
コミュニティ・バンク京信
ソーシャル・グッド推進部 主任
2018年に京都信用金庫に入庫。城陽支店にて窓口業務・店周担当を経験後、久御山支店では企業金融担当を経験。2025年4月より現部署のソーシャル・グッド推進部にてS認証に携わる。趣味は水泳とスキューバダイビングと野球観戦。



野島 真志さん
西武信用金庫 個人支援部 推進役
2011年に西武信金に入庫。2児のパパ。趣味は筋トレ。大型店舗で個人・法人営業を経験後、副支店長として都心・都下店舗を経験。現在は本部で個人ローン推進、管理、案件組成、研修講師に携わる傍ら、複数のプロジェクトチームの一員として参画。

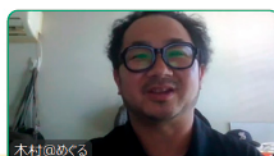


有本 毅さん
大分県玖珠町地域おこし協力隊
第一勧業信用組合に入組し、一貫して融資業務に明け暮れ、約300億円を融資実行し、デフォルト先ゼロ。役に立つ合同会社を設立し、中小企業に伴走を継続。大分県玖珠町の地域おこし協力隊を引受け、二拠点生活中。

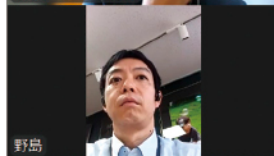
SBCスクールの参加動機は？

角井 私はちょうど異動したてのタイミングで参加しました。当金庫では“世のため人のため”に取り組む企業を認証する「ソーシャル企業認証制度 S認証」を5つの信用金庫と共に取り組んでおり、京信では私の部署で推進をしています。そんな中、「ソーシャルって何だろう」と考えている時期で、他の信用金庫の方とお話できることを期待して参加しました。「S認証」の取得は営業店勤務時代からサポートしてきました。

野島 私は大学時代にNPOに興味があって、以前住んでいたマンションの会議室を夏休みに開放して、子どもたちに勉強を教えたりしていました。でも、就職してからはそういう機会が全然なくて。今回のスクールで何かインスピレーションを受けられたらと思って参加しました。なぜ自分に声がかかったのか正直よくわからなかったんですが、「これはチャンスだ」と思い参加を希望しました。



有本 私は2025年4月に地域おこし協力隊になったばかりで、京信さんがこういったソーシャルな取り組みをしているイメージは前から持っていました。どうやって関わっているのか、誰がどう仕掛けているのか、聞いてみたいと思っていたんです。スクールのファシリテーターを務めた江上さん（えがちえん）の勉強会



にもよく参加していたので、方向性は何となく予想していました。実際に行ってみたら、金融機関職員以外の参加者は私だけで、びっくりしましたね。よくも悪くも異分子として、場をかき回してやろうと思って参加しました(笑)。

スクール後の行動や変化はあった？

角井 他の信用金庫の職員さんと話せたのが本当によかったです。金融機関はどうしても閉じがちなところがありますが、地域を超えて普段なかなか出会えない方たちと出会えました。認定NPO法人CLACKさんの現場を訪問できたのも勉強になりましたね。ソーシャルビジネスのイメージがすごく具体的に湧くようになりました。一緒に参加したメンバーからも、「普段会えない人と会えた」という声をたくさん聞きました。

野島 いろいろな方と共通のテーマについて対話できたことが大きかったです。それを通じて、自分の行動が他の人に影響を与えているんだということに気づかされました。それまでは自分の部の仕事だけをやっていればいいと思っていたんですが、今は他部署の仕事内容も広い視野で見られるようになり本部として営業店にできることは何だろうと考えるようになりました。これまで本部内でメールや電話で済ませていたことも、直接相談しに行くようになりましたね(笑)。スクールでお世話になっためぐるの木村さんにも、個人支援部主催勉強会の特別講師としてご登壇いただきました。

有本 最初は「金融機関がソーシャルってどんなもんだろう」という感覚で見えていました。実際に参加してみると、本部職員の方が多くて、トップの強いリーダーシップが組織に浸透しているからか、「ソーシャルを自分ごととして捉えている」職員さんが一定数いるんだなと感じました。ただ、いろいろな金融機関の現場の方とお話すると、そう

いう感覚が全然出てこないというギャップもあって。これが「時差」ならいいんですが、「温度差」だったら現場にはなかなか浸透しないなと思っています。それがわかった上で、地元・大分の金融機関とどうコミュニケーションを取っていくかを考える、貴重な経験になりました。

スクールの価値とは？

角井 スクールの価値は二つあると思っています。一つは、いろいろな金融機関の人とつながって話ができること。何かやりたいと思ったときに頼れる仲間ができて、それがコミュニティになっていく。もう一つは、お金の流れに関する視野が広がったことです。株式会社や有限会社以外にも、いろいろな資金の流れがあることを知りました。お客様と接するときの引き出しが増えたなと感じています。京信は2026年6月から、お客様のくらしやご事業、地域社会の課題解決に力を入れる「課題解決型店舗」に全店舗が切り替わりましたが、そういった中で引き出しが多いことはすごくプラスに働くと思います。

野島 私にとっては「非日常の体験」に尽きますね。ソーシャルの知識を得られたのはもちろんですが、それ以上にシナリオプランニングのような考え方を学べたのが、今後の仕事にめちゃくちゃ役立つんじゃないかと感じています。いつ、どんな形で活かせるかは正直まだわかりませんが、何かにぶつかったときに使える引き出しになると確信しています。CLACKさんを訪問したとき、年次報告書の決算ページを真っ先に見てしまって、講師のえがちえんに怒られたのもよい思い出です(笑)。

有本 私は「よそ者」「異分子」の存在によって、地域を効率的に改革できているんです。「西武信金と京都信金」というだけでも十分、異分子じゃないですか。いろいろな人やバックグラウンドが混ざっている方が、絶対に

おもしろい。今年のスクールは最低催行人数が8団体と昨年より多様な参加者を求めているから、参加者同士の「触れ合う面積」が広がって、得られる付加価値も大きくなるんじゃないかと感じています。単なる研修として参加するのと、自分から楽しんで参加するのでは、持ち帰れるものが全然違いますよね。

最後に、未来の参加者へのメッセージを！

角井 いろいろな方と出会って、知見を広げられるのが一番の魅力です。何かにチャレンジしたいという方には、おすすめしたいですね。「ソーシャル」と名前は付いていますが、結局は「自分ごとにする」ことが肝だと思っています。懇親会でもたくさんの参加者と仲良くなれるので、ぜひ楽しんでもらえたらと思います。

野島 日常業務をこなしているだけでは見つからないことが、非日常の場で見つかることがあります。いろいろな課題にぶつかったそんなときに、社内以外にも相談できる人可以できるのは、本当に自分自身の財産となります。スクール後のラボや分科会で参加者と再会していろいろお話できる機会も日常にはない経験です！ スクールを、自分自身を見つめ直したり、次のステップに進むきっかけにする場として、ぜひ活用してもらえたらと思います。

有本 会社からの期待に応えることは、みなさんできていると思うんです。でも、「たまには社会からの期待に応えてみませんか？」と投げかけたいなと思います。社会から求められることに応えていく方が、実はうれしかったりするんですよ。地域金融機関の職員のみなさんは、会社を辞めなくても社会の期待に応えられる状況がある――それって、本当にうらやましいことだと思います。

2025年度活動報告

2025年度も、ソーシャルビジネス支援に挑む金融機関の役職員(ソーシャルバンカー)を勇気づける機会を提供するべく、「1.人材育成・交流」「2.融資審査等サポート(パートナー会員のみ)」「3.調査・啓発・提言」の3つの活動を実施しました。

人材育成・交流

地域金融機関における「組織的」「継続的」ソーシャルビジネス支援を定着させるためには、本部や営業店の役職員が同じ志を持つ他の金融機関の役職員とつながり、いつかはやってくるリーダーの交代に備えることが重要です。SBCは、ソーシャルビジネス支援を志す地域金融機関の役職員が学び合い、支え合い、刺激し合って、各金融機関の取り組みを進める「ソーシャルバンカー」を育成します。

「スクール」の開催

2025年度は初めてのスクールをコミュニティバンク・京信と共催し、19名の金融機関職員等にご参加いただきました。
スクールの詳細は、4〜7ページの特集をご覧ください

「ラボ」の開催

「ラボ」はソーシャルビジネス支援に関するスキルや知識、専門性等の獲得を促すための場です。2025年度は玉島信用金庫、西武信用金庫、コミュニティバンク・京信とともに開催しました。

SBCラボ2026@玉島信用金庫
〜「寄付型」預金&融資の開発・販促のポイントは?〜
参加申込者:31名(全2回)

【第1回】2026.1.29(木) 15:00-17:00
事例紹介
(1)九州労働金庫
ボランティア預金「NPO パートナース」
(2)近畿労働金庫
教育ローン de 子育て応援プロジェクト



【第2回】2026.2.12(木) 15:00-17:00
主な内容
ケーススタディ
西武信用金庫「地域みらい定期預金」
ワークベルソナシートの作成・共有



SBCラボ2026@コミュニティ・バンク京信
今さら聞けないインパクト
——ソーシャルバンカーのためのきほんの「き」
2026.3.18(水) 15:00-17:00
参加申込者:16名



講師
青柳光昌さん(一般社団法人社会変革推進財団 専務理事/インパクトコンソーシアム 運営委員/GSG Impact JAPAN National Partner ボードメンバー)

SBCラボ2026@西武信用金庫
〜今、ソーシャルバンカーが知っておきたい「遺贈寄付」と「志金」源の多様化〜
参加申込者:30名(全2回)

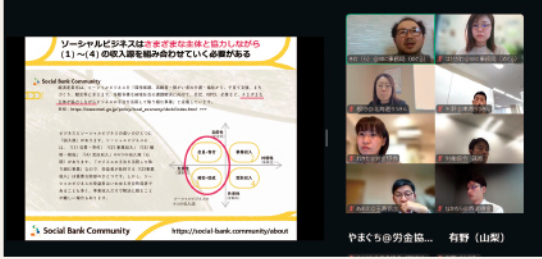
【第1回】2026.2.25(水) 15:00-17:00
今、ソーシャルバンカーが知っておきたい「遺贈寄付」〜「個人」担当者向け〜
講師
三浦美樹さん(一般社団法人日本承継寄付協会 代表理事)



【第2回】2026.3.4(水) 15:00-17:00
今、ソーシャルバンカーが知っておきたい「志金」源の多様化
講師
中山勇魚さん(NPO法人Chance For All 代表理事)



[満足度はすべて「平均/10点満点」で表記]



「JPBV ソーシャルビジネス支援プログラム『WILL』2025 @オンライン」の共催

金融機関等の役職員が半年間、ソーシャルビジネスを伴走支援するプログラムである「WILL」を、一般社団法人 価値を大切にする金融実践者の会(JPBV)と共催しました。初めてのハイブリッド開催となった「成果報告会」には138名より参加申し込みがありました。参加者の平均満足度は9.7点(10点満点)でした。

WILL2025 @オンライン
レポートはこちら



ソーシャルビジネス支援に挑む金融機関の多くは国内外問わず、外部有識者の力を借りて融資審査等を行っています。続々と生じる社会課題に対応するためには、「社会とともに」取り組む必要があります。SBCでは、ソーシャルビジネス支援の経験豊富な事務局スタッフが、審査等に関する助言を行います。

事務局スタッフ

久保 匠
ソーシャルセクターパートナー
すくらむ

木村 真樹
合同会社めぐる

古里 圭史
株式会社リトルパーク

融資審査等サポート (パートナー会員のみ)

調査・啓発・提言

地域金融機関によるソーシャルビジネス支援を日本各地に広げるには、ソーシャルビジネス事業者の意識変革も不可欠です。各会員の取り組みや実績等を調査し、金融機関は「交渉相手」ではなく「相談相手」であることをお伝えする、ソーシャルビジネス向けの啓発活動や提言等も行います。

「分科会」の開催

全4回の分科会をオンラインで開催し、延べ197名の方に参加申し込をいただきました。

第2回
「預金の活かされ方がわかる融資」
2025.6.19(木) 15:00-17:00
参加申込者:79名



金融機関に預けたお金が、どのように社会に活かされているかが見える融資を行う日本の金融機関の事例として、コミュニティ・バンク京信が何を大切に、どのような取り組みを重ねてきたのかを伺いました。
事例紹介:預金の活かされ方がわかる融資——コミュニティ・バンク京信「京信ソーシャル・グッド預金」「京信ソーシャル・グッド融資」、ソーシャル企業認証制度 S 認証

第3回
「2024年度年次報告書を読む会」
2025.9.11(木) 15:00-17:00
参加申込者:49名



SBC会員の日本の金融機関が、何を大切にどんな取り組みを重ねてきたかを伺いました。
[満足度はすべて「平均/10点満点」で表記]

第4回
「会員とともに生きるソーシャルキャピタルの構築」
2025.12.16(火) 15:00-17:00
参加申込者:50名



営業店が地域の社会課題解決に挑む「寄り添い企画」を年80件以上実施する玉島信用金庫が、何を大切にどんな取り組みを重ねてきたかを伺いました。
ゲスト(話し手):宅和博彦さん(玉島信用金庫 理事長)、長谷川勉さん(日本大学 商学部 教授)

第5回
「『地域金融力の強化に関するワーキング・グループ』報告書を“ソーシャルバンカー”目線で読み解く」
2026.3.2(月) 15:00-17:00
参加申込者:19名



2025年12月に公表された同報告書では、「地域課題の解決」が主な論点のひとつになっています。
ゲスト(話し手):家森信善さん(神戸大学経済経営研究所教授/金融審議会「地域金融力の強化に関するワーキング・グループ」座長)



「会員アンケート」の実施

会員アンケートを行い、会員のソーシャルビジネス支援に関する実績等を収集しました。

『年次報告書』の発行

SBCとして初めて『年次報告書』を作成し、500部を発行しました。各年度の印象的な取り組みを紹介する特集や、会員アンケート結果等を掲載しました。

各取り組みのレポートは、
事務局ブログをご覧ください。



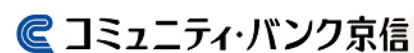
2025年度

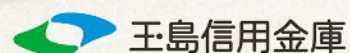
SBC パートナー会員による ソーシャルビジネス 支援事例

SBCでは、会員によるソーシャルビジネス支援の現状を把握するため、毎年度、融資実績や支援事例等に関するアンケートを実施しています。

アンケートを通じて寄せられた、各パートナー会員（コミュニティ・バンク京信、西武信用金庫、玉島信用金庫）の取り組みの中から、支援先の成長や社会的インパクトの拡大につながった実践事例をご紹介します。

パートナー会員





Report 01

顧客の想いに伴走した 抱っこ紐開発支援

コミュニティ・バンク京信

Background 支援の背景と経緯

コロナ禍で受注不安を抱えるOEM製造の株式会社福井様が、自社の縫製技術と自身の育児経験を活かした抱っこ紐の自社ブランド立ち上げを決意されました。「誰もが使いやすい抱っこ紐」の開発に初めて挑戦する福井様を支えるため、松井山手支店の牧野が「抱っこ紐プロジェクト」を立ち上げ、商品化への伴走を開始しました。

Support 具体的な支援内容

自身も支店唯一のママであった牧野は、福井様の想いに深く共感し開発を後押ししました。本当に世に求められる商品にするため、保育施設や子育て専門機関を紹介。さらに、子



育て経験のある金庫職員から「リアルな意見」を集めることで、多くの世代に共感してもらえる商品となるよう、開発を多角的に手助けしました。

Outcome 支援の成果

約2年間の伴走を経て、機能性とデザイン性に優れた抱っこ紐「PairFook」シリーズの誕生を実現。福井様の「育児負担を減らしたい」という想いが形になりました。商品完成後も、牧野は所属する支店内の子育てイベント等で試着や貸出を実施するなど、地域に向けた継続的なプロモーション支援を行っています。



牧野さんが親身に伴走し、専門機関の紹介や職員のリアルな声を集めてくれたおかげで商品化できました。金融機関でこんなことをしてもらえることに驚き、何よりも共感してくれたことにとても感謝しています。

福井 隆博さん
株式会社福井 代表取締役

Report 02

こども服の譲渡会を通じた 資源循環と子育て支援

西武信用金庫

Background 支援の背景と経緯

近年、物価上昇の影響により子育て世帯の家計負担が増加している一方で、子どもの成長に伴い短期間で着用できなくなるこども服の破棄も課題となっていました。また、地域には「譲りたい人」と「必要としている人」が存在しているものの両者をつなぐ場や機会が不足しており、地域内での資源循環や交流促進が十分に進んでいない状況がありました。

Support 具体的な支援内容

当金庫は、複数の営業店にてロビーや会議室スペースを無償提供し、譲渡会の開催場所として協力しました。加えて、近隣世帯へのチラシ配布や来店顧客への案内を通じて、地域住民への周知活動を実施しました。当日は子育て世帯



同士の交流促進や地域情報の共有も行われ、当金庫職員も受付や運営補助として参加することで、地域との接点強化にもつながりました。

Outcome 支援の成果

営業店を活用した開催により、地域住民が立ち寄りやすい環境が整い、多くの子育て世帯が参加しました。参加者からは「金融機関が地域活動を行っていることに親近感を持った」などの声も寄せられました。また、不要となったこども服の再利用が進み、脱炭素への貢献や地域内での資源循環への意識向上にも寄与しました。



ゼンドラさんと連携して行われた「こども服の譲渡会」でたくさんの来場者の笑顔に触れることができました！ぜひ今後も継続して地域を元気にしていきたいと思います！

中須 玉青さん
西武信用金庫 本郷支店
コーディネーター担当

Report 03

想いをつなぐ 地域共創マルシェ

玉島信用金庫

Background 取組の背景と経緯

「コロナ禍で苦しむ飲食店を支援したい」—苦境に立つ取引先の姿に、現場職員が強い危機感と使命感を抱いたことが出発点です。金融支援だけでは届かない課題に向き合い、地域事業者支援と街の賑わい創出を目的に企画しました。あちてらす倉敷のオープンスペースを活用し、2022年より地域の「豊かさ(Rico)」をつなぎ広げる交流市場「メルカド・リコ(Mercado Rico)」を立上げ、継続開催しています。

Support 具体的な取組内容

地域の飲食店や事業者が出店するマルシェを定期開催しています。出店募集から当日の運営、片付けまで職員が主体的に関与し、出店料も無料とすることで参加しやすい環境を整備



しています。毎回テーマを変え来場者を飽きさせない工夫を凝らし、継続的な来場動機を創出するとともに、地域の魅力発信の場として運営しています。

Outcome 取組の成果

開催回数は累計で16回に達し、地域に完全に定着しています。来場者増加とともに、出店者の販路拡大や認知向上に寄与しています。出店者同士の交流や商談機会の創出、来場者間のコミュニケーション促進にもつながり、新たな交流拠点として地域の賑わい創出に貢献しています。



地域事業者と来場者をつなぐ場として、回を重ねるごとに手応えを感じています。今後も地域の賑わい創出と関係性の深化に貢献していきたいと思っています。

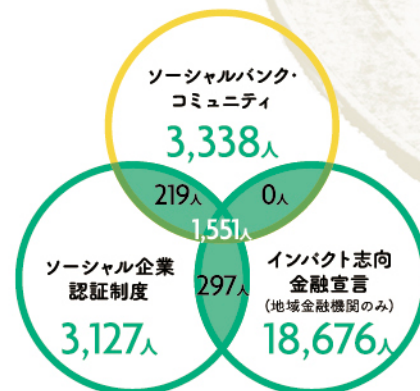
坂田 利明さん
玉島信用金庫
ソーシャルキャピタル部 部長

数字で見るSBC

2026年7月現在

	ソーシャル企業 認証制度 2021年4月発足	インパクト志向 金融宣言 2021年11月発足	ソーシャルバンク・ コミュニティ 2024年9月発足
参加機関数	6	10 地域金融機関のみ	5
事務局	ソーシャル企業認証機構	社会変革推進財団	すくらむ、めぐる、リトルパーク
主な対象	ローカルビジネス	インパクトビジネス	ソーシャルビジネス
テーマ	中小企業のソーシャル化	企業のインパクト化	民間公益活動団体の事業化

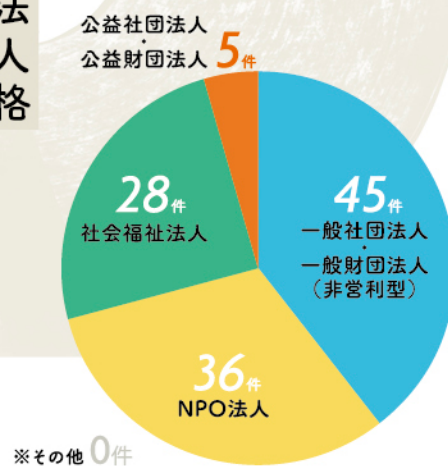
参加機関数



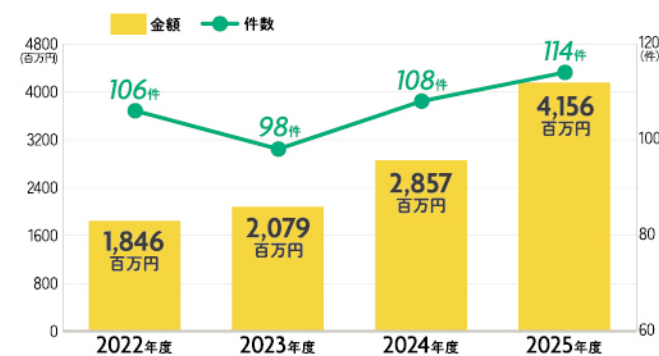
役員員数

2025年度に融資した
ソーシャルビジネスの

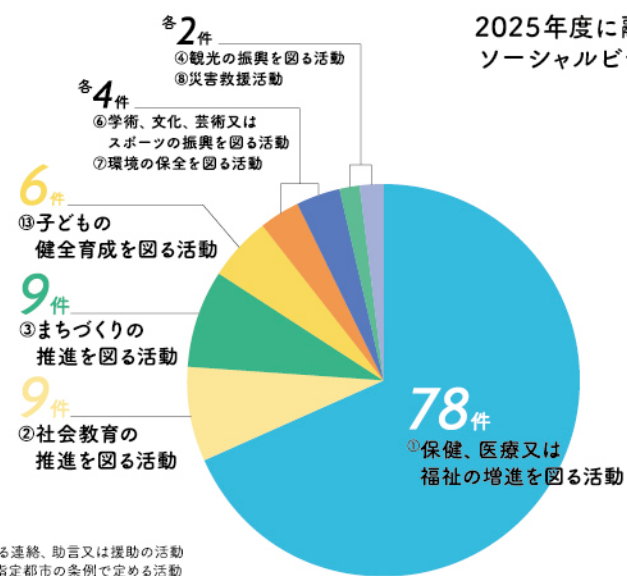
法人格

SBC会員による
ソーシャルビジネスへの

融資実績

2025年度に融資した
ソーシャルビジネスの

活動分野



0件

- ⑤農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
⑨地域安全活動
⑩人権の擁護又は平和の推進を図る活動
⑪国際協力の活動
⑫男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
⑬情報化社会の発展を図る活動
⑭科学技術の振興を図る活動
⑮経済活動の活性化を図る活動
⑯職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
⑰消費者の保護を図る活動
⑱前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動
⑲前各号に掲げる活動に準ずる活動として都道府県又は指定都市の条例で定める活動

※特定非営利活動促進法(NPO法)で定められている活動分野(特定非営利活動の種類)に準じて分類(活動内容が複数の分野に当てはまる場合は、主な活動分野に分類)

2025年度決算報告

収入	
前期繰越金	26,175
会費	1,770,000
事業収入	355,500
雑収入	501
合計	2,152,176 (単位:円)

支出	
業務委託費	1,711,600
謝金	300,475
旅費交通費	141,340
通信費	43,655
印刷費	28,390
雑費	45,528

未払い金	-193,689
次期繰越金	74,877
合計	2,152,176 (単位:円)

2025年度の主な収入は、会員からの会費とイベントの参加費でした。

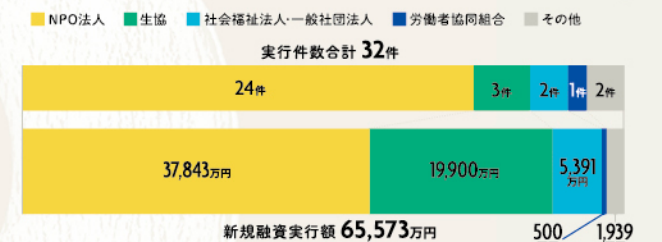
2025年度の主な支出は、事務局の運営費と初開催したスクールの運営費および年次報告書の作成費でした。

2年度目の決算は約11万円の赤字となりました。2026年度も引き続き、会員やイベント参加者の増加に取り組んでいきます。

SBC事務局コラム

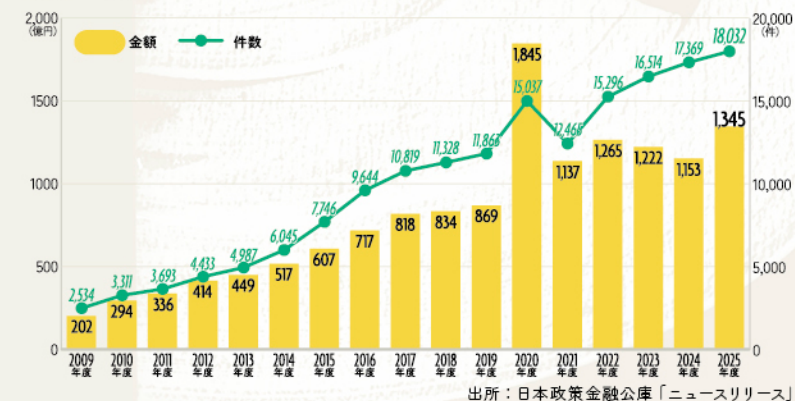
地域の挑戦に答える金融は、
各地にある。

労働金庫：NPO等への融資の概況(2025年度)



日本政策金融公庫

「ソーシャルビジネス関連融資実績」



SBC事務局ブログの「マンスリーレポート」でも、木村は同様のコラムを執筆しています。ぜひご覧ください。

事務局ブログはこちら→



11ページでは、SBC会員である3つの信用金庫の融資実績を紹介しています。さらに本ページでは、日本政策金融公庫におけるソーシャルビジネス関連融資の推移に加え、2025年度にSBCへ新たに加わった全国労働金庫協会から共有いただいた、全国13金庫の実績も掲載しました。これらをあわせて見ると、地域の社会課題解決に挑むソーシャルビジネスには確かな資金ニーズがあり、そのニーズに応えようとする金融機関が各地に存在することが見えてきます。

ただ、件数や金額だけでは、どんな事業者がどんな課題に向き合い、金融機関がどのような対話や工夫を重ねて支

えているのかまでは見えてきません。SBCでは、そうした各地の実践を会員同士で共有しながら、事務局ブログやマンスリーレポートを通じて発信しています。本報告書とあわせて、日々積み重ねられている現場の取り組みにも触れていただけたらうれしいです。

木村真樹
ソーシャルバンク・コミュニティ
事務局スタッフ
/ 合同会社めぐる 代表



2026年度活動計画

人材育成・交流

○「スクール」の開催※

2回目となる2026年度は、パートナー会員の西武信用金庫とともに計4日間開催します。今回は「林業」「若者支援」「居場所づくり」の3つの異なるソーシャルビジネスの現場を訪問予定です。「社会のこと」「自分のこと」として語り合えるソーシャルバンカーたちと出会い、日々の業務につなげる機会を提供します。スクールについては、4〜7ページの特集をご覧ください。
※参加費：パートナー会員の役職員は無料、メンバー会員の役職員は割引

○「ラボ」の開催※

ホストの各パートナー会員がSBCと共催し、年1回企画運営します。計4時間程度のオンライン開催を想定しています。
※参加費：会員の役職員は無料

ソーシャルビジネス支援に挑む金融機関の多くは国内外問わず、外部有識者の力を借りて融資審査等を行っています。今年度も引き続き、パートナー会員からの要請に応じて、ソーシャルビジネス支援の経験豊富な事務局スタッフが、審査等に関する助言を行います。

事務局スタッフ

- 久保 匠
ソーシャルセクターパートナー
すくらむ
- 木村 真樹
合同会社めぐる
- 古里 圭史
株式会社リトルパーク

調査・啓発・提言

○「分科会」の開催※

日本のソーシャルバンキングを推進する上で、中長期の検討が必要なテーマを取り上げます。2時間程度のオンライン開催を年4回想定しています。
※参加費：会員の役職員は無料

○「SBC ソーシャルビジネス支援プログラム『WILL 2nd』2026 @オンライン」の開催※

「WILL 2nd (ウィル・セカンド)」は、SBC憲章を遵守してソーシャルビジネス支援に挑む金融機関の職員等(ソーシャルバンカー)が、仕事等で培ったスキルや経験等を生かして、ソーシャルビジネスを半年間応援するプログラムです。2026年度は2団体の採択を予定しています。
※参加費：パートナー会員の役職員は無料、メンバー会員の役職員は割引

融資審査等サポート (パートナー会員のみ)

○「会員アンケート」の実施

会員のソーシャルビジネス支援に関する実績等を収集し、『年次報告書』にまとめます。

○『年次報告書』の発行

各年度の印象的な取り組みを紹介する特集や、会員アンケート結果等を掲載します。

SBCの動きを知るには

SNSをフォロー



事務局ブログを読む

メールニュースに登録

最新の取り組みや活動レポートなどをお送りします



SBCにかかわるには

SBCへの入会を検討している

金融機関の方

SBCはさまざまなアクションを通して、会員である金融機関の役職員に対し、成人発達理論における「水平的成長」と「垂直的成長」を促します。

SBC会員には、「パートナー会員」と「メンバー会員」の2つがあります。ご関心のある金融機関の方は、事務局までお気軽にご相談ください。

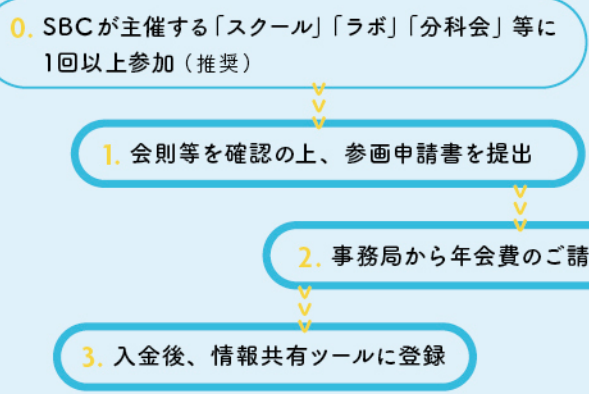
多様な価値観を受け入れ、多角的な視点を持って仕事を進められる、人間としての器の成長。

垂直的成長

水平的成長

ソーシャルビジネス支援に関する知識やスキル、専門性等の獲得。

SBC会員になるためのステップ



SBC会員の金融機関とつながりたい

ソーシャルビジネス事業者の方

地域の社会課題解決は、SBC会員等のソーシャルビジネス支援を志す地域金融機関と連携することで加速できると、SBCでは考えています。

地元にSBC会員の金融機関が存在しない場合も、何かしらお役に立てることがあるかもしれません。お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせは
以下よりどうぞ

ホームページ
お問い合わせページを開く



Voice

新規入会者の声
(メンバー会員)

2026年度入会

中日信用金庫

中日信用金庫は、名古屋市北区に本店を構え、半径10km圏内に全店舗を有する地域密着型の金融機関です。【想いをつなぐ、共につくる未来】をパーパスとして定めており、重要テーマとして「地域未来を豊かにする」を掲げ、地域社会との連携強化に取り組むこととしています。
SBCに参画することで、社会課題解決に取り組む事業者への支援事例や、支援機関との情報交換等により知見を蓄積し、当金庫のソーシャルビジネスへの支援体制を確立・定着させることでパーパスの実現を目指していく所存です。

長尾 匡記さん
中日信用金庫 地域サポート部 部長代理



<https://social-bank.community/>



Annual Report 2025 - 2026

ソーシャルバンク・コミュニティ
2025年度 年次報告書

ソーシャルバンク・コミュニティ
2026年7月27日 発行